

藤枝に「静かな夜過ごす」キャンプ場整備 24年3月開業予定 交流人口拡大へ

2023.9.5



藤枝支局 青木功太

藤枝市の中山間地域の活性化に向け、同市瀬戸谷地区のびく石ふれあい広場を有効活用し、官民連携で宿泊・滞在拠点施設を整備する事業が4日、始まった。事業主の東海ガス（焼津市、丸山一洋社長）が中心となってニーズが高まるキャンプ場を整備し、交流人口の拡大を目指す。2024年3月にオープンする予定。



びく石ふれあい広場で撮影したテントサイトの完成イメージ＝藤枝市瀬戸ノ谷

新たに開設する施設名は「びく石山 静かな夜のキャンプ場」（仮称）。同社は、瀬戸谷温泉ゆらくの隣接地に新陶芸センターや道の駅を複合的に整備する市の「ふじえだ陶芸村構想」に共感。地域に貢献する新規事業として、滞在型の観光拠点となる宿泊施設を提案し、主体的に事業を進めることになった。

コンセプトは「夜を静かに過ごせるキャンプ場」。敷地面積は9820平方メートルで、キッチンやトイレ、シャワーを完備した最大4人の宿泊が可能なコテージを全5棟建てる。うち3棟はプライベートデッキに露天風呂を設置。全27のテントサイトなども設備する。

同日、起工式が行われ、同社社員や市職員、施工業者、地元住民ら約40人が工事の安全を祈った。丸山社長は玉串をささげ、「自然の中で豊かな夜の時間を過ごしてほしい。キャンプ場を起点に、多くの方に瀬戸谷地域の魅力を実感してもらえ、ることを心から願っている」とあいさつした。

（藤枝支局・青木功太）